（別紙５－１）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

授業担当者
所属/職名：農学部・准教授
氏　　名：岡本繁久

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
研修先（国・地域） 滞在地	タイ・バンコク
研修期間	2018.02.13　～　2018.02.24

〔研修の成果〕

今年度は、農学研究科の修士1年生・2名を提携校KMUTTに派遣して短期研修を行った。バイテクに関連する5講義を受講させるとともに、マナ・ラン農園、タイ国立食品研究所、味の素・アユタヤ工場、冷凍食品製造会社、食品市場などを視察した。これらの活動を通じて熱帯・亜熱帯地域における農業や食品産業の問題点や実践的なバイテクとは何かを学ばせることができた。味の素社員からは、自社製品をタイ人に認知させ販売するために構築すべき関係性は何かという点を学んだ。また、主要活動の一つとしてKMUTT学生(修士）とともに問題発見解決型授業（PBL）を行った。今回のテーマは「食品ロスとその対策」であり、両校の学生がそれぞれの国の問題点を提示し、解決策を話し合い、資料を作成して両校教員に対して結果を披露した。PBLでは、修士学生が主体となり議論を進行させ、また、プレゼン資料の作成を指導した。最終的に見事に発表できたことは短期間で彼らが大きく成長したことを物語る。この他、タイの歴史文化、或いは日本との関係性を学ぶため、アユタヤ市内の日本人村と歴史記念公園、バンコク市の寺院（ワット・ポー）　やラタナコーシン博物館などを訪れた。これらの視察を通じてタイ王国の成り立ちや日本との長い交流史を学んだ。加えて、食品市場では買い物を通じ、タイの一般的な人々との会話と交流を行った。この場面では、英語という共通言語を使わず意志疎通を図る経験を積ませることができた。東京を凌ぐ大都会バンコクに身を置き、KMUTT学生をはじめとするタイ人や他外国人とコミュニュケーションをとる経験が積めたのは、今後、国際的にまた地域で活躍することを目指す学生にとり貴重な経験になったと考えられる。また、学生海外派遣講義の意義の一つである【国際交流とは何か】という点を改めて考えるよい経験になったと考える。今後、参加学生がバイテク産業をはじめとして国際社会や地域社会で活躍してくれることを強く希求する。

〔今後の課題〕

本プログラムは、国際的に活躍でき、しかも地域産業にも貢献できるバイテク・リーダーの育成を目指して昨年度（H28）より始めた学生海外派遣講義である。修士学生の知的レベルについては、講義に 対する理解度やPBLへの貢献度という点では大きな問題を感じることはなかった。しかしながら、今回も現地活動を通じて本学学生の英語会話力不足を痛感した。一般論であるが、海外学生派遣講義に参加を希望する学生には、TOEFL、TOEIC、IELTSなどを課す必要があるかも知れない。また、鹿大への留学生との交流機会を増やすなどして、外国人に対するアレルギーを払拭させる活動も必要と強く感じた。